

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	読谷村立読谷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	8	7	1	24	49
生徒数	286	284	269	6	845	

研究の概要

1. 研究主題

「基礎学力」を定着させるための学習指導の工夫と改善 - 個に応じた指導・参加する授業・分かる授業をめざして -
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生数学 中学数学の基礎となる1学年での基礎的・基本的事項の確実な定着を図るため</li> <li>・ 2年生数学 習熟度別少人数授業を行い学習面における個人差を縮め、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るため</li> <li>・ 1年生国語 1学年から基礎・基本の徹底と確認を図り、より個性豊かで発展的な国語力を身につけるため</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「基礎学力」を定着させるための学習指導の工夫と改善 - 個に応じた指導・参加する授業・分かる授業をめざして -</p> <p>研究の見通し 学習内容(基礎的・基本的事項の明確化)の分析を行い、前提条件を整えること及び基本概念の確立を図っていくことにより、本時の基礎的・基本的事項を理解し、習得できるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 計画的な補習指導の実施 小中連携による相互授業の実施 (フロンティアスクール指定小学校への支援)</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「基礎学力」を定着させるための学習指導の工夫と改善 - 個に応じた指導・参加する授業・分かる授業をめざして -</p> <p>研究の見通し 生徒の自己評価、観点別評価に基づいて学習状況を的確につかみ、生徒個々の習熟度、理解度を明確にすることで個に応じた指導形態・方法・体制・教材教具の工夫・改善を進めることができれば、補充的な学習や発展的な学習を効果的に指導することができ、生徒一人一人が自ら学び、考え、主体的に学習に取り組むことができる、「確かな学力」が身に付くであろう。 教師が学習指導方法のあり方や評価の工夫、生徒一人一人への関わり方に関する研修を積極的に行い、個に応じたきめ細かな指導を行えば、生徒一人一人が基礎的・基本的事項を確実に身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 評価基準表の作成 計画的な補習指導の実施 小中連携による相互授業の実施 学年・学級、教科経営案の充実 習熟度による少人数授業の実施</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「基礎学力」を定着させるための学習指導の工夫と改善 - 個に応じた指導・参加する授業・分かる授業をめざして -</p> <p>研究の見通し 生徒の自己評価、観点別評価に基づいて学習状況を的確につかみ、生徒個々の習熟度、理解度を明確にすることで個に応じた指導形態・方法・体制・教材教具の工夫・改善を進めることができれば、補充的な学習や発展的な学習を効果的に指導することができ、生徒一人一人が自ら学び、考え、主体的に学習に取り組むことができる、「確かな学力」が身に付くであろう。 教師が学習指導方法のあり方や評価の工夫、生徒一人一人への関わり方に関する研修を積極的に行い、個に応じたきめ細かな指導を行えば、生徒一人一人が基礎的・基本的事項を確実に身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 計画的な補習指導の実施 学年・学級、教科経営案の充実</p> <p>小中連携による相互授業の実施 習熟度による少人数授業の実施</p>
--------	--

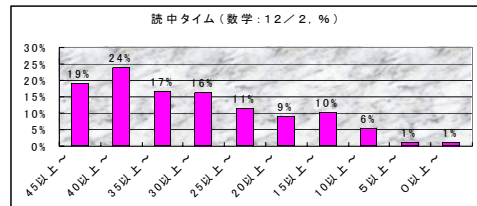
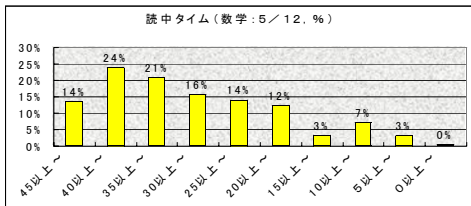
(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロンティア事業実践研究委員会 (メンバー 校長・教頭・教務・研究主任・生徒指導主任・各学年主任・各研究部長)</li> <li>・小中連携教育実践研究委員会 (メンバー 校長・教頭・教務・研究主任・小学校相互授業実施の教科担当)</li> </ul>
--

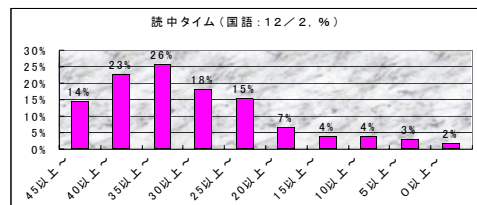
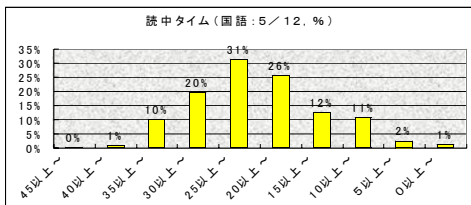
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

全職員の学力向上に対する意識の向上  
同じ共通理解の下に、各教科が補充的な学習や発展的な学習を行うことができた。  
各教科で、単元や小単元で評価を行うことにより、生徒の習熟の程度を把握し、補充的な学習の時間を実践することで、個に応じたきめ細かい指導を実践することができた。  
各教科で検証授業を行い研究を深めることができた。  
評価の研修を行うことで評価についての共通理解を図ることができ、評価を生かした指導を実践することができた。  
習熟度別少人数授業を行うことによって、数学科においては数学を嫌いと言った生徒が減った。  
定期的な独自の学力検査(読中タイム：達成度テスト参考、50点満点)  
数学40点以上が38%から43%へ上昇



定期的な独自の学力検査(読中タイム：達成度テスト参考、50点満点)  
国語40点以上が1%から38%へ上昇



達成度テスト 国語：平均 38.2 から 39.7 1.5 点上昇

## 2. 今後の課題

校内の研究体制の充実・強化  
習熟の程度を把握することはできたが、補充的な学習のための時間を十分に確保することができず、休憩時間等を利用して行っている現状があるので、時間の確保（設定）が課題である。  
習熟度を把握するための評価の方法の工夫・改善  
学習の中で獲得したものを生かした発展的な内容や、生活に発展させていく内容、系統的な発展的内容など多種、多様な発展的学習のための教材の工夫・改善・開発

### 学力把握のための学校としての取組

T K式標準学力検査の実施（年1回）  
目的：全国的な学力の実態を把握するため  
内容：前学年の国語・数学・英語の内容（全生徒対象）  
時期：4月下旬  
勉強法100の質問  
目的：生徒の家での学習の状況、仕方等の把握  
内容：家庭での家庭学習状況や勉強の仕方などをアンケート方式で答える（全生徒対象）  
時期：4月下旬  
定期的な独自の学力検査の実施（年2回）  
目的：生徒の学力の把握  
内容：達成度テスト程度の内容  
時期：6月、全学年対象、国・数・英（2・3年）  
11月、1・2年対象、国・数・英

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度 学力向上フロンティアスクール研究報告会開催  
日時：平成15年11月19日（金）  
場所：渡慶次小学校（合同開催）  
対象：村内小中学校関係者・父母，中頭地区小中学校関係者  
目的：フロンティアスクールの取り組み等を普及するため

平成16年度 学力向上フロンティアスクール研究報告会  
日時：平成17年1月19日（予定）  
場所：読谷中学校（渡慶次小学校合同開催）

研究報告のためのHP作成（平成15年度研究報告会の内容に更新予定）

研究報告書の作成及び村内中学校への研究報告書の配布（全職員分）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無